

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社 教育と探求社

【サービス名称】

- ①マイクエスチョン
- ②マイクエスチョン・アドバンス

【サービスの支援項目】

- ①、②ともに
- カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス
- カテゴリ-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス

2026年1月



■ 探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴①マイクエスチョン

カテゴリ	1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス	1-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス
サービス名	マイクエスチョン	マイクエスチョン(基本料金)
(1)導入によるメリット、類似サービスとの違い等	マイクエスチョンが解決する探究学習の課題は、生徒が「自分だけの問い」と出会い、主体的に学ぶ機会の不足です。探究の成功には、生徒自身が関心を持ち、深く考え続ける問いが不可欠ですが、多くの生徒は「問いを持つ」経験がなく、出発点でつまづきがちです。また、学校教育では正解のある問題が主流で、「答えのない問い」に向き合う習慣が不足しています。本プログラムは、カードゲームを活用し、多様な問いに触れることで「問いの面白さ」に気づく機会を提供します。問いの発見から探究のプロセスを経験することで、「分からないことを考える楽しさ」を学び、主体的に探究を深める力を養います。これにより探究的な学びの高度化を図ります。	
(2)学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果	マイクエスチョンの導入により、探究的な学びの高度化が促進され、生徒の主体的な学びの促進、探究学習にねばり強く取り組む生徒の増加(継続的取り組み)、教員の校務負担軽減が期待されます。まず、主体的な学びでは、「問いを考えることが面白い」と回答した生徒の割合が向上し、ほとんどの生徒が「自分だけの問い」を設定できます。継続的取り組みについては、問いの深掘りを繰り返すことで(平均5回程度)、当初の問いより興味関心の深い問いに探究対象が転じていくことが期待されます。	
(3)サービスの活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・学級づくり、多様性の受容として ・探究学習の導入として ・進路指導:本質的な進路選択の第一歩として 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備の効率化と質の担保 ・教員の役割転換に向けた支援
(4)1サービスあたりの標準販売価格	生徒用教材費 2,200円(税別) / 生徒1名	基本料金 350,000円(税別) / 1学年

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

<p>以下、すべて費用内でご提供いたします。</p> <p>○生徒用教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークブック(ワークシート等も含まれます) ・カードゲームセット <p>○教員用教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業進行用スライド ・(先生用)指導ガイド ・授業進行表 ・先生用チュートリアル動画 <p>※教員用サポートとして、サポートデスクが導入等を伴走します。</p>	<p>○授業の進行だけでなく、学校への導入・定着・次年度に向けた施策等、先生のニーズに応じてコーディネーターが幅広くサポートいたします。</p> <p>サポート例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムサポート(電話・メールサポートは費用内・面談等は応相談) ・指導ガイドの解説 <p>※以下、1回まで費用内・交通費は別途となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入研修の実施 ・振り返り勉強会の実施 ・学校訪問・オンライン訪問サポート
--	--

1. サービスの概要、特徴②マイクエスチョン・アドバンス

カテゴリ	1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス	1-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス
サービス名	マイクエスチョン・アドバンス	マイクエスチョン・アドバンス(基本料金)
(1)導入によるメリット、類似サービスとの違い等	マイクエスチョン・アドバンスが解決する課題は、生徒が「問いを立てた後の探究の進め方が分からない」ことです。特に、主張の構築やデータ収集を伴う論証の経験が不足し、探究をやりきる力が育ちにくい問題があります。本プログラムは、問いを「明確性・批判性・実証可能性」の観点で磨き、仮説を立て、それをデータで論証する学問的フレームワークを体験させることで解決を図ります。生徒は、実験・インタビュー・観察などの一次資料を用いた調査を行い、論理的に主張を構築します。さらに、レポートにまとめて振り返ることで、探究の成果を定着させる仕組みとなっています。	
(2)学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果	マイクエスチョン・アドバンスの導入により、探究学習の継続率向上、論理的思考力の向上、進路選択の意識向上が期待されます。まず、探究の継続率では、問いの明確化とデータ収集を体験することで、途中で挫折する生徒の割合が減少することが期待されます。次に、論理的思考力では、学問的な探究プロセスを経験することで、論理的構成力が向上し、主張と論拠が明確なレポートかけるようになる生徒が増加します。さらに、進路選択では、学問に基づいた方法論の体験を通じて大学・職業選択の視野が広がり、探究したテーマを活かした進路を選びたい生徒が増加します。	
(3)サービスの活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習の深化として ・進路指導：学問への関心喚起として ・学習意欲の向上として 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備の効率化と質の担保 ・教員の役割転換に向けた支援
(4)1サービスあたりの標準販売価格	生徒用教材費 2,200円(税別) / 生徒1名	基本料金 350,000円(税別) / 1学年

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

<p>以下、すべて費用内でご提供いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒用教材 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークブック(ワークシート等も含まれます) ○教員用教材 <ul style="list-style-type: none"> ・授業進行用スライド ・(先生用)指導ガイド ・授業進行表 <p>※教員用サポートとして、サポートデスクが導入等を伴走します。</p>	<p>○授業の進行だけでなく、学校への導入・定着・次年度に向けた施策等、先生のニーズに応じてコーディネーターが幅広くサポートいたします。</p> <p>サポート例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムサポート(電話・メールサポートは費用内・面談等は応相談) ・指導ガイドの解説 <p>※以下、1回まで費用内・交通費は別途となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入研修の実施 ・振り返り勉強会の実施 ・学校訪問・オンライン訪問サポート
--	--

探究学習における教員の準備負担と生徒の主体性不足などが主な課題でした。授業用スライドや指導ガイドにより、教員の業務時間を短縮。

カードゲームや独自のフレームワークにより調べ学習に留まらない本質的で高度な探究活動を実現します。

児童生徒・教職員が抱える課題

教職員の負担	探究学習のカリキュラム作成やスライド準備に合計20時間以上を要し、教員の大きな負担となっていた。
生徒の意欲	探究活動を「面倒」と捉える生徒や、正解を待つ受動的な生徒が多く、自ら問いを立てることが困難であった。
調べ学習化	既存情報の収集のみを行う「調べ学習」に留まり、独自の主張や論理的な立証に至らない課題があった。
知識重点	授業が知識伝達に偏り、教科ごとの「見方・考え方」を育む場が不足していた。
心理的安全性の不在	自由な発言が少なく、他者の多様な視点を認め合う余裕が不足していた。

サービスが果たす役割

教職員の役割転換	教員用のスライドや指導ガイドを完備し、準備時間を削減。教員の余裕につなげて、「教える立場」から「支援する立場(リソースパーソン)」へ転換させた。
生徒の主体化	カードゲームを導入し、生徒が問いを作る過程を体験させた。これにより、生徒が主体的に学ぶきっかけを作った。
フレームワークによる探究学習へのリーチ	「三角ロジック」や「パラグラフライティング」の技法を枠組みとして提供した。実験や取材による一次データの収集を促し、独自性の高い探究を実現した。
本質的な問い	「問いカード」を活用し、授業を探究型へアップデートする契機とした。自分自身の問いと向き合うことで知識の意味や考え方自体に目を向けるようになった。
心理的安全性の向上	問いや答えが「人それぞれ」であることを体験させ、学級内に多様性を受け入れる土壌を形成した。対話を通じて心理的安全性を高める一助となった

■探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

①マイクエスチョンでの課題と活用例

○探究学習の第一歩としての活用
 課題:探究を進めるうえで「問いを立てる過程」が非常に重要である一方、その難しさも感じていた。
 活用:生徒が問いを立てることに慣れ、考え方を身につけるための練習として高校1年生の探究の一番最初の活動として導入。



○「問い」へのアプローチとして活用
 課題:「問い」が日常にたくさんあるということを認識し、問いに興味を持ってほしかった。
 活用:問いづくりのカードゲームを何度も使用。また、「問い」を中心に身の回りのものを捉えてみる活動を積極的に行った。



○授業の進化や業務負荷低減施策として活用
 課題:学校として探究ができていない。
 活用:教員研修を校内で実施。教員の意識を変えることを目的にすすめていった。

課題:総合でやることを考えたり、準備をするのが大変。
 活用:テキストや手引の通り行うことで、「問いのたてかた」「問いを見つける」「自由な考え方、思考の広げ方」等を教員の負担を減らしながら実現できた

②マイクエスチョン・アドバンスでの課題と活用例

○個人探究の向上への活用
 課題:個人探究をやらせているが、調べ学習で終わってしまっていた。問いそのものがあやふやだったり、仮定を立てて論証する方法がわからなかったりという課題を解決したい。

活用:問いのブラッシュアップ(自分ごと化)や論証の仕方を学んだうえでレポートないし論文の形でまとめることにつながった

○マイクエスチョンとの連携活用
 課題:探究とはどういうものかわからない状態であったため、生徒とともに教員も学びたい
 活用:マイクエスチョンと組み合わせて、問いの立て方などを学んだあとに、生徒の実情に合わせてながら本格的な探究につなげた。

課題:個人探究を進めさせるうえで、生徒一人ひとりに対する働きかけには限界があると感じていた
 活用:生徒自身の興味・関心はもちろん、生活の中の様々な事象に対し探究的な視点を持ってとらえた「問い」に対して、基本的な道筋がある状態で探究することで形にできた



本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	35	学校等教育機関数	41校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	森町教育委員会	町立中学校1校	北海道	中学校	1,2,3	総合的な学習の時間
2	金ヶ崎町教育委員会	町立小学校1校	岩手県	小学校	5,6	総合的な学習の時間
3	米沢市教育委員会	市立中学校1校	山形県	中学校	1	総合的な学習の時間
4	群馬県教育委員会	県立高等学校2校	群馬県	高等学校	1	総合的な探究の時間
5	西東京市教育委員会	市立中学校1校	東京都	中学校	1	総合的な学習の時間
6	私立	K高等学校	神奈川県	高等学校	1	総合探究
7	富山県教育委員会	県立高等学校2校	富山県	高等学校	2	美術
8	石川県教育委員会	県立高等学校1校	石川県	高等学校	1	総合的な探究の時間
9	私立	B高等学校	岐阜県	高等学校	2	総合的な探究の時間
10	私立	H高等学校	岐阜県	高等学校	1,2,3	総合的な探究の時間
11	私立	D高等学校	静岡県	高等学校	3	探究発展
12	裾野市教育委員会	市立中学校1校	静岡県	中学校	1	総合的な学習の時間
13	津島市教育委員会	市立中学校1校	愛知県	中学校	1,2	総合的な学習の時間 学活
14	小牧市教育委員会	市立中学校2校	愛知県	中学校	1,2,3	総合的な学習の時間
15	京都市教育委員会	市立中学校1校	京都府	中学校	2	総合的な学習の時間
16	私立	G高等学校	大阪府	高等学校	2	総合的な探究の時間
17	堺市教育委員会	市立小学校1校	大阪府	小学校	6	特別活動
18	河内長野市教育委員会	市立中学校1校	大阪府	中学校	1,2	総合的な学習の時間

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	35	学校等教育機関数	41校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
19	東大阪市教育委員会	市立中学校1校	大阪府	中学校	2	独自教科
20	和泉市教育委員会	市立中学校2校	大阪府	中学校	1,2	総合的な学習の時間
21	大阪府教育委員会	府立高等学校3校	大阪府	高等学校	1	総合的な探究の時間
22	私立	E中学校	兵庫県	中学校	1	学活
23	伊丹市教育委員会	市立中学校1校	兵庫県	中学校	1,2,3	総合的な学習の時間
24	私立	I中学校	奈良県	中学校	3	特活
25	奈良市教育委員会	市立中学校1校	奈良県	中学校	3	総合的な学習の時間
26	私立	A小学校	和歌山県	小学校	3	探究
27	雲南市教育委員会	市立中学校1校	島根県	中学校	2	学級活動及び総合的な学習の時間
28	私立	J高等学校	福岡県	高等学校	1	総合的な探究の時間
29	春日市教育委員会	市立中学校1校	福岡県	中学校	1,2,3	総合的な学習の時間
30	筑紫野市教育委員会	市立中学校1校	福岡県	中学校	1,2,3	総合的な学習の時間
31	福岡市教育委員会	市立中学校1校	福岡県	中学校	2	総合的な学習の時間
32	北九州市教育委員会	市立中学校1校	福岡県	中学校	2,3	総合的な学習の時間
33	私立	C高等学校	佐賀県	高等学校	1	課題研究
34	佐賀県教育委員会	県立高等学校1校	佐賀県	高等学校	2,3	総合的な探究の時間
35	私立	F中学校	沖縄県	中学校	3	探究

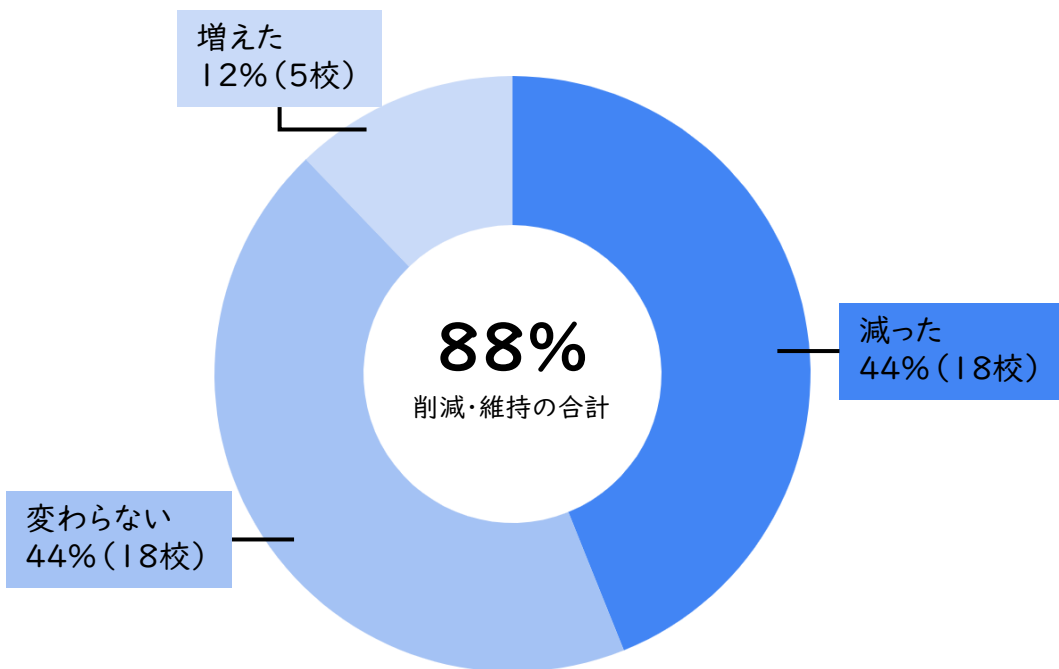
【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

導入校の約4割で業務量が削減されました。特に「総合的な探究の時間」において、ゼロからの教材作成やカリキュラム検討に要していた膨大な準備時間が、完備されたスライドや指導ガイドの活用により大幅に短縮されています。準備時間を20時間から2時間へ削減した事例もあり、教員の負担軽減に寄与しています。

Q.業務量は減りましたか？

回答:41校



【サマリー】

- 新たなプログラム導入に関わらず、9割近くの学校が業務量の削減や維持であったと回答。
- 学校によっては20時間から2時間、10時間から3時間へと短縮しています。

【いただいたご意見】

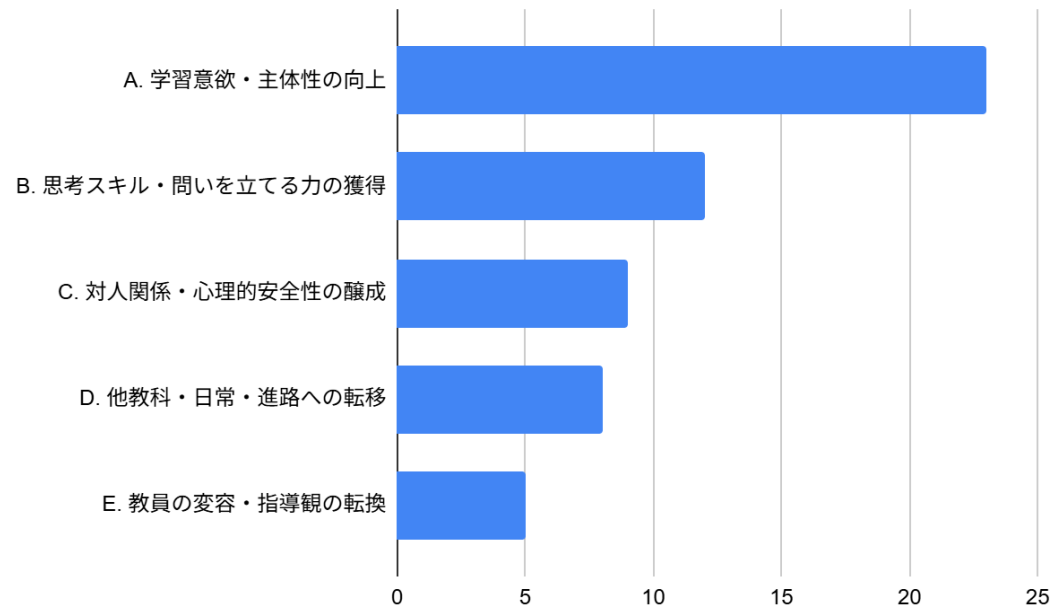
- 「構成を考えたり、スライド・ワークシートを作成する時間が大幅に減りました」
- 「イチから教材研究しなくとも授業に取り組める」
- 「マイクエスチョンと同じことは教員に任せてもできない。仮にやるとすれば、10時間以上はかかるのではないか」
- 「一部の先生方は、よりよくしようと考えて、結果時間をかけることになっていると思う」

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

導入により、生徒は「問い」の面白さに目覚め、受動的な姿勢から主体的な探究者へと変容しました。多角的な視点の獲得や他者の意見への肯定的な姿勢に繋がり、学級内の心理的安全性が向上。日常や他教科、進路選択においても自ら問いを立て、深める力が育まれています。

定性的効果の種類と傾向
アンケート結果(41校の回答)より、報告された効果を5つのカテゴリーに分類しました。



- **A. 学習意欲・主体性の向上: 23校**
探究への「面倒」という意識が払拭され、休み時間や家庭でも問いを考えるなど、楽しみながら取り組む姿勢が見られた。
- **B. 思考スキル・問いを立てる力の獲得: 12校**
「問いカード」等の活用により、多角的な視点から物事を捉え、論理的に自分の考えを言語化できるようになった。
- **C. 対人関係・心理的安全性の醸成: 9校**
正解のない問いに向き合う中で、他者の意見を肯定的に聞き、多様な価値観を認め合う学級文化が形成された。
- **D. 他教科・日常・進路への転移: 8校**
社会科の資料読解、美術の着想、修学旅行の計画、大学入試の志望理由書作成など、他場面での応用が報告された。
- **E. 教員の変容・指導観の転換: 5校**
教員が「教える人」から「共に探究する伴走者」へと意識を変え、探究学習の進め方への自信に繋がった。

■ 探究・校務改革支援サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

○探求的な学習のサイクルは、課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現、という流れで学習を進め、新たな問いが生まれたり、気づいたりしながら、また課題設定に繋げスパイラルに続けていきます。この中で、主体的に学ぶためには「課題を設定する力」が重要であるものの、育成が難しいと感じておりました。

情報収集や整理分析、表現まとめは、学習の積み重ねの中でスキルとして高めていきやすい。しかし、どちらかという日本教育が与えられた課題や、正解のある問いを学習する機会が多かった影響もあり、課題に気付く力、課題を設定する力が弱いと感じておりました。

課題への気づき、問いの設定は、自分で探求的に学習を進める肝です。生成AIの進化をみれば、人間の仕事である問いを設定する力がとても重要であると推察します。今回のマイクエスチョンで、問いを生む方法を学んだり、答えの無い問いを考える楽しさを体験することができました。(導入校 校長)

○ステップ1でゲームをしたときは、答えばかりを尊重して、問いに対してはそれほど興味を持っていませんでした。けれど、ステップ2では少しずつ興味を持つようになりました。自分たちで生み出した問いから、新しい問いも生まれてきました。

ステップ3では、カードに書いてあったテーマをもとに、自分が考えてみたいと思う問いも作っていき、自分の周りのテーマを集めることができました。そのテーマの中から、ステップ4で、自分のこれから先ずっと考えていきたい問いを見つけることができました。また、ステップ5では、さらに問いをブラッシュアップさせることができました。問いをつくることで、自分の描いている世界が広がっていった楽しかったです。(導入校 生徒)

○問いを追求することが、楽しいことだという意識をもつ児童が増えた。肯定されることを通して、自己肯定感が上がった。物事を様々な視点から見ようとする姿勢が見られた。(導入校 教員)

○毎日の社会科の授業で主体的に資料から『問い』をつくり、自分で探究ステップを踏んで学習をしています。その時に『マイクエスチョンやってよかった。問いが作りやすくなった』という声や、今まで気づけなかった資料の部分を見るようになった』と言っていました。(導入校 教員)

○個人で深めたクラスと4人班で内容を深めたクラスの、2つのパターンがありました。個人で深めたクラスについては、何か不明なことや疑問に思ったことなどがあれば、GIGA端末等を使って調べている様子が多くみられるようになりました。班活動で取り組んだクラスでは、班での話し合いがさらに深まったように感じられました。(導入校 教員)

■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

導入時の教職員間の意識共有や、実施中の生徒に応じた難易度調整、特に後半の「深める」過程の伴走に大きな課題が見つかりました。

また、問いを立てるだけで終わらず具体的な検証活動へ繋げる仕組みや、他教科や日常への転移など、持続性に関わる課題もあらわれています。

直面した課題

1. 導入時の課題

- ・教職員間の意識共有：
プログラムの有用性や育てたい力について、教職員全体で共通理解を図ることが難しく、担当者の熱量と現場の温度差が生じやすい。
- ・「最初の一歩」のハードル：
教材の意図やねらいを理解し、実際に授業として踏み出すまでの心理的・時間的な障壁が高い。

2. 実施していく中での課題

- ・対象学年による語彙・ニュアンスの壁：
小学生や語彙力が低い生徒にとって、ワークシートの漢字や後半の「問いを深める」ステップの表現が難しく、退屈させてしまう場面があった。
- ・問いを論理的に磨き上げるプロセスにおいて、生徒だけでは停滞しやすく、教員の高いファシリテーション能力が求められることがある。

3. 実施した結果、新たに顕在化した課題

- ・「問い」で終わってしまう：
マイクエスチョンによって良い問いを立てることはできたが、それを実社会での検証や実験など、具体的な「探究活動」へと自走させるための接続システムが学校内だけでは不足する。
- ・他教科・日常への転移の難しさ：
プログラム内では盛り上がるが、その視点を日常の学習や行事に結びつけるまでには至らず、「単発のイベント」で終わってしまう懸念がある。

解決するための改善策

1への改善策

- ・教員向け体験会の実施：
実施前に先生方が実際にカードゲーム等を体験し、楽しさと教育的効果を実感する場を設けることでマインドセットを行う。
- ・標準的な時間配分パターンの提示：
「4時間短縮版」や「3回×2セット」など、学校の事情に合わせた複数の実施モデルを事務局側で用意する。

2への改善策

- ・校種別プログラム・ふりがな対応：
低学年向けに「ふりがな」を付け、語彙を平易にした小学校版などのバリエーションを開発・選択可能にする。
- ・ファシリテーター用ガイドの強化：
特に難しいとされる「ペアインタビュー（対話による深め）」や「手法の検討」について、教員が使える具体的な声かけ例や支援手順を充実させる。

3への改善策

- ・アウトプット目標の設定：
探究コンテストへの応募やポートフォリオ作成など、目に見える目標を設定し、問いを具体的な成果物に繋げる動機付けを行う。
- ・既存行事・教科との連動：
美術のアイデア出しや修学旅行の事後学習など、特定の既存活動に本プログラムを組み込む「活用レシピ」を共有し、日常化を促す。

■会社概要

社名	株式会社教育と探求社
代表	代表取締役 宮地勘司
設立年月	平成16年11月26日
本社	東京都千代田区四番町4-9
資本金等	1億6,638万円
売上高等	非公開
従業員数	非公開
事業内容	教材の企画開発・制作販売、教育支援業

■お問い合わせ窓口

担当：学校部

電話：03-6674-1234

Mail：sc@eduq.jp